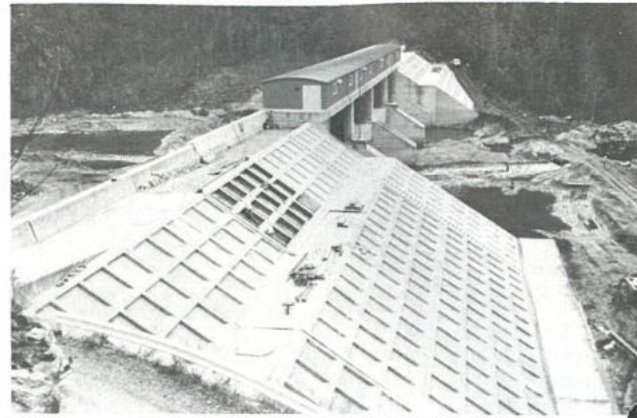


津波に万全

摂待水門が完成

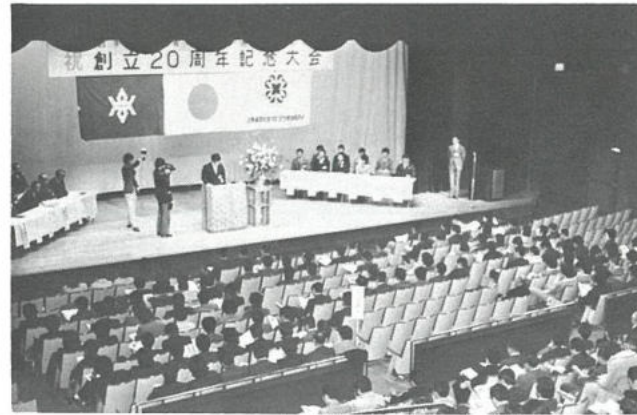


昭和45年から田老町摂待川河口に建設を進めていた「摂待水門」が、このほど完成した。この水門は、津波から県土と県民を守ろうとするもの。提防延長が195延で、中央に幅16.2延の門扉を4つ備えている。

これまでの海岸水門のなかでは、県内最大の規模で、52年度にはさらに遠隔操作装置を取り付けることにしている。総工費は、5億8,600万円。突発的な津波に対応でき、地元民から喜ばれている。

決意新たに20周年大会

県農村青年ク連絡協

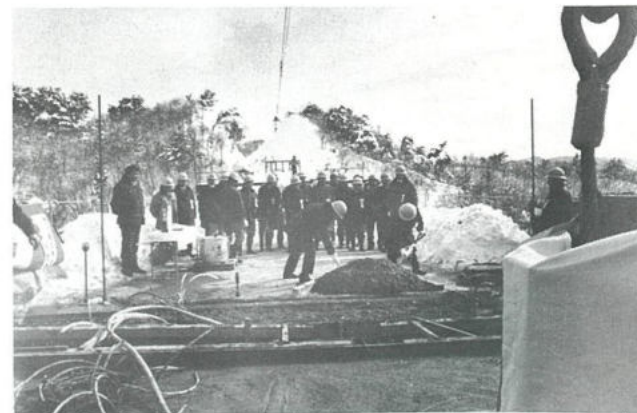


県農村青年クラブ連絡協議会創立20周年記念大会は、2月17日午前10時30分から来賓、クラブ員300人が出席して開かれた。農村青年クラブは、昭和32年2月に地域の課題を解決しようとして、県内全域に組織化

され、ことしで20周年を迎えたもの。大会では、記念式典が行われ「あすの岩手の農業を担う先駆者として、厳しい道を切り開いていく決意を新たにす」という大会宣言を採択した。

完成までもう一歩

浄土ヶ浜大橋が連結



浄土ヶ浜有料道路建設にともなう「浄土ヶ浜大橋」の連結式が、2月17日行われた。同有料道路は、増大する観光需要に対応するとともに、公園地内の保全を図ろうと、昭和49年から建設が進められているもの。鰯の

浜に面した浄土ヶ浜大橋の建設が最大の難関とされていた。この連結により工事も加速度的に進められ、ことし7月1日には、延長距離1.7延、幅員7延の浄土ヶ浜有料道路がお目見えすることになっている。

予算と施策を発表

2月定例記者会見



千田知事は2月7日県庁3階特別会議室で記者会見し、①52年度一般会計当初予算案、②52年度主要施策と重点事業を明らかにした。一般会計予算案の総額は2,632億円3,500万円で、51年度当初予算額より13.4%上回った。また、重要施策については、厳しい財政環

境のなかで、環境条件の整備充実、県民生活の安定・向上と社会福祉の充実、農林水産業の振興、商工業、観光の振興、教育文化の振興と青少年の育成、の5つを柱に新規事業15を含めた154の重点事業を発表した。

冬の岩手を視察

駐日仏大使来県



ジャン・ピエル・ブリュネ駐日フランス大使は、岩手、青森両県内視察のため、1月24日来県し、県庁に千田知事を表敬訪問した。同大使は来日2年になるが、岩手県に来たのは初めて。県庁では千田知事をはじめ県首脳部と懇談

し、このなかで大使は「冬の岩手に来たのは、岩手の人たちが、気象条件が悪くても一生懸命生活している姿を見たかったから」と語った。このあと大使は、滝沢村で南部曲がり家、盛岡市で県営スケート場、南部古代型染の小野染彩所(=写真)などを視察した。